

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

Ⅱ 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 「学校教育との連携」、「生涯学習の推進」、「地域・各種団体との連携」、「効率的かつ安心・安全な管理運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学を育てるまちづくり」の推進に寄与した。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。	A B C D これまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。 引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。	条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。	条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。 引き続き、適切な取扱いを期待する。
	▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ 電気、水道、地域熱等の使用については、空調設備及び電気設備業者等と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。 ▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。	コロナ禍以前に比べ、感染症対策のための空調の活用やこまめな換気による冷暖房の使用が増えているが、中でも可能な限り効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。	適切な新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施したうえで、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。
	▼ 「環境科学展(パネル展)」の開催や環境に関する常設展示物の展示等により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。	「環境科学展」の開催や、展示室内の太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民に対して広く省エネ・環境配慮に関する取組みについて周知することができた。	コロナ禍において、「環境科学展」の実施方法を工夫し、市民の関心を集めるような事業を実施したことを評価する。 引き続き、市民への環境配慮への周知をお願いしたい。
	▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。		

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。

▼ 館長1名、課長2名、係長4名を配置した。

▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・契約職員・パート職員等の採用を行った。

▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。

▼ 人材育成のため、動画を用いたeラーニングでの研修を実施するとともに、オンラインでの外部研修等に参加した。

▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。

▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛生委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。

適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。

新型コロナウイルスの影響で、対面での研修受講機会は多くなかったものの、オンラインセミナー等に積極的に参加することで、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。

各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。

管理運営組織が確立されていることを評価する。市民サービス向上のため、柔軟に課題解決に取り組める組織体制づくりを進めること。

オンラインの外部研修の活用等、コロナ禍においても職員の専門性、技術の向上に努めたことを評価する。専門性が求められる分野であることから、継続した人材育成を期待する。

就業規則や36協定等については、研修や会議等の機会を利用し、職員への周知に努めていただきたい。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 新型コロナウイルスによる臨時休館中や出勤抑制が続く期間内においても、グループウェアを積極的に活用した業務体制づくりを進めるなどして、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。

▼ 日常から事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行のため再委託した。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 6月18日 (オンライン)	令和2年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換
第2回 10月27日 (オンライン)	令和3年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換
第3回 2月25日 (オンライン)	令和3年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換

<協議会メンバー>

北海道情報大学経営情報学部システム情報学科教授、札幌市立北園小学校校長、札幌市立幌東中学校校長、一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長

これまでの運営経験で培われたノウハウを活かすとともに、IT技術を活用することで管理水準の維持向上につなげた。

施設の維持管理および展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。

感染症対策のためオンライン開催とした。学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

コロナ禍における出勤抑制中においても、職員間での情報共有に努めたことを評価する。事故防止に努めることはもちろん、事故発生時には、館内はもちろんのこと、市教委に対しても速やかな情報共有及び適切な対応をお願いしたい。

経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。

科学館の運営管理における有意義な意見交換が行われる場となるよう、引き続き、協議手法について検討すること。また、運営協議会の意見を踏まえて、科学館の事業がより良いものとなるよう努めること。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応している。

▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。

▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組みを行っている。

▼ 現金等の取扱いについては「小口現金取扱要領」に則り、適正に行っている。

資金管理、現金等の取扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適正な資金管理が行われていることを評価する。
今後も事故を未然に防ぐため、職員の意識啓発に努めていきたい。

規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。

▽ 要望・苦情対応

▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。

▼ 全ての職員が常に的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。

要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。

苦情等については、適切な処理が行われているが、利用者からの声を真摯に受け止め、さらなるサービスの向上に繋げることを期待する。
また、利用者に対し、要望・苦情に対応する部署の周知を図ること。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼ 職員の接遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、接触機会を低減するために、webアンケートの方式を採用した。寄せられた利用者の声は事業運営等に活かしている。

アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が89.7%であり、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。

利用者の高い満足度がうかがえる。今後も高い評価が得られるよう、引き続き職員の接遇、サービスの向上に期待する。
また、総合的な設問だけではなく、個別の展示や企画・エリアについて、より実践的な設問を導入することについても検討すること。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めている。	関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。 社労士に委託し、相談窓口の設置や労働環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋がった。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。</td></tr> <tr> <td colspan="4">就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。</td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。				就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。			
A	B	C	D												
職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。															
就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。															
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼ 災害時の対応について、財団で定めた消防計画、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成等に即して、適切に役割分担を行い、利用者の安全確保に努めている。 また、緊急連絡網を作成し、有事に備えた連絡体制を整備している。 ・施設管理者賠償責任保険 対人賠償 1事故1,000,000,000円(免責なし) 1人 100,000,000円(免責なし) 対物賠償 1事故 50,000,000円(免責なし) ・レジャー・サービス施設費用保険 死亡1名あたり500,000円 後遺障害1名あたり500,000円 入院1名あたり ~100,000円 通院1名あたり ~50,000円 ・レクリエーション傷害保険 死亡・後遺障害1名あたり1,000,000円 入院日額1,500円 通院日額1,000円	各種災害に関する避難マニュアル等を作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、今後も新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策を適切に行うこと。</td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、今後も新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策を適切に行うこと。							
A	B	C	D												
適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、今後も新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策を適切に行うこと。															

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)保守については、第三者委託により実施している。 ▼ 躯体の老朽化に伴う修繕については、札幌市教育委員会と調整を図り、対応した。 ▼ 機器設備等の故障箇所等については、可能なものは速やかに修繕を行った。大規模な設備の修繕に関しては、札幌市教育委員会と調整を図った。 ▼ 老朽化や故障による休止中の展示物が増えてきているため、札幌市教育委員会と調整を図りながら修繕を進めた。令和4年度以降の展示物リニューアルも見据えながら、部品が入手できず修繕不能な展示物については、職員が自作した展示物などを代替して展示するなどした。 ▽ 防災 ▼ 消防計画に則り、防災訓練(火災を想定した避難誘導・通報訓練)を実施し、避難誘導体制の確認に努めた。	第三者委託業務については、適正な管理監督を行い、業務完了時には完了報告書を受け、業務内容について監修した。確認後は随時報告書を提出し委託業務の適正な管理等を行った。 施設・展示物の維持管理について、財団で修繕可能なものは速やかに修繕を行った。 修繕不能な展示物が増えていく中でも、職員の工夫によって、新たに5点の展示物を展示することができた。 常勤の職員のほか、委託業者やパート職員を含め、館に係る全員が参加し、現実に即した形での防災訓練を実施した。スタッフ全員の防災意識を高めるとともに、対応力の向上を果たすことができた。	適切に取り組まれていることを評価する。 職員が自作した展示物を代替で展示する等、自らの工夫による取組を評価する。 施設の老朽化への対応については、利用者だけでなく、近隣住民にも大きな影響を与える事故に発展する可能性があることから、教育委員会への密な連絡・報告を徹底すること。 適切に取り組まれており評価する。 なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。
---	--	--

(4)事業の計画・実施業務	▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示		<table border="1"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </table>	A	B	C	D
A	B	C	D				
	▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。 コロナ禍においては、日本博物館協会が発出した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」等に基づいて各展示物のリスク診断を行い、リスクが高い展示物は休止するなど、常に安全性を意識しながら展示物の運用を行った。 ▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。 ・夏休み「夏の大運脳会～スポーツは科学だ～」 23日間開催(来館者15,958名) 走る、投げる、飛ぶといった動きのコツについて、スポーツバイオメカニクスをもとに、道具の素材や構造などを体験しながら学ぶことができる特別展を実施した。 ・札幌市青少年科学館開館40周年記念イベント「はやぶさ2帰還カプセル特別展示in札幌」 11日間開催(来館者12,839名) (協力:宇宙航空研究開発機構) 宇宙や科学への興味関心をいだけさせるため、JAXAの協力のもと、はやぶさ2帰還カプセル特別展を開催し、併せてプラネタリウムの特別投影やオンライン講演会を行った。 ・冬休み「2022! さいゑんす 忍者展」 18日間開催(来館者8,487名) 忍者の忍術になぞられ科学技術を楽しく体験しながら学ぶことができる特別展を実施した。 ▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会をオンラインにて実施した。 ・山崎直子宇宙飛行士オンライン講演会「宇宙への挑戦」 (参加者72名) JAXAでの宇宙飛行士募集の話題に併せて、山崎氏が宇宙飛行士に挑戦した時や、宇宙での経験を体験エピソードを中心に講演いただいた。	体験型展示物が数多く設置されている館であるため、新型コロナウイルスへの各種対策を講じつつ、来館者の安全確保を第一に考えた。その結果、コロナ禍においても、展示物を通して広く市民に科学や科学技術の知識を提供し、科学への興味・関心を喚起できた。 常設展示では網羅できない特定のテーマや分野に関して、科学の面白さや楽しさ、私たちの身近な暮らしとの係わりについて伝えることができた。 コロナ禍で、非接触型の展示物や密を避けるレイアウトの工夫などを行い、感染予防と体験展示の両立を図ることができた。 また、コロナ禍で中止となるイベントが多い中、JAXAの協力のもと貴重な資料を市民に公開できる機会を提供することができた。 先端科学技術と科学の面白さや楽しさを、私たちの身近な暮らしに関連して伝えることができた。当館名誉館長である山崎元宇宙飛行士の講演会を実施することで、コロナ禍にあっても当館のPRや利用者の開拓につなげることができた。	常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。 開館40周年イベントにより、11日間という短い期間の中で、1万人以上の集客をしたことについて評価する。今後も市民の科学や科学技術への興味・関心を喚起できるような企画を期待する。 山崎名誉館長のイベントは幼児から高齢者まで幅広い層から人気がある内容のため、今後も講演などを通して本市科学館のPRに協力いただき、これまで科学に興味・関心がなかった方にも科学館に来館してもらえるようなイベントの実施に期待する。				

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室

科学原理の理解を深める機会を提供するため、小・中学生を対象に、簡単な工作教室を実施した。

通常(日祝) 68回 参加者305名

GW 5回 参加者19名

夏休み 24回 参加者136名

冬休み 16回 参加者66名

春休み 12回 参加者65名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

● 各種実演

・サイエンスショー

来館者とのコミュニケーションを図りながら科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。

500回 参加者9,325名

「音、光、地震…並みじゃない波」 ほか

・テレビスタジオ

クロマキーなどテレビ番組で使われている特殊効果を紹介するとともに実際に撮影体験してもらう参加型の実演を行った。

2回/日 (3回/土日祝・特別展期間中)

・日曜実験室

小中学生を対象に、身近な題材や科学現象をテーマにした実験教室を実施した。

45回 参加者275名

「おもしろ電池 作って ためて 動かして」 ほか

定員を減らし、接触を減らすよう工夫をしながら、共通化した材料を基本として題材開発をすすめることで、材料準備等の効率性を高めるとともに、安全性にも配慮した工作会を実施することができた。

サイエンスショーなどの実演をとおして、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。コロナ禍においては、広い会場への変更や定員を減らすなど、接触機会を減らすとともに、感染リスクに配慮したプログラムなど工夫を行った。

身近な題材を取り上げた実験を行い、理科の面白さを伝えることができた。コロナ禍においては、定員を減らしたり、参加者同士あるいは参加者と講師の接触機会が無くても行うことが可能な実験を取り入れるなどの工夫をこらした。

新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、子どもから大人まで科学を楽しめる工作教室や実験室を実施していることを評価する。今後も、適時適切な感染対策を行ったうえで、楽しめる企画の実施を期待する。

実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながる展示である。機器が老朽化する中で実施が困難なものもあるが、今後も新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで、市民が楽しめる工夫を期待する。

・実験・実習への協力

市内の小中学校等を対象に、学習指導要領を踏まえた内容で子どもの興味・関心を高める実演や実験・実習を行った。

理科授業プログラム 6校 参加者714名

※例年実施していた、学習サイエンスショーは新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館等により中止

▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発

▼ 一般投影・特別投影

生解説を含む投影で、年齢や理解程度に応じて柔軟に対応し、市民にわかりやすい星座・天文の解説を行った。一般投影では、月替わりの「プラネタリウムスタンプ」及び特典を用意し、リピーターの増加を図った。

一般投影 865回 観覧者44,954名

特別投影 11回(うち1回は配信) 観覧者993名、5,004回再生

▼ 学習投影

小・中学校を対象に、理科授業の一環として、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、天体の動きなどを学習するプラネタリウム投影を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で来館できない学校には、職員を学校へ派遣したり、オンラインで館と学校を結んで学習投影内容を解説するなどした。また、学習投影内容を収録したオリジナルDVD教材の貸し出しも前年度から継続して実施した。

158回 観覧者12,377名

職員派遣 16回

オンライン 3回

DVD貸出 33校

プラネタリウムや各種展示物など、当館が持つ学習資源を生かして、小中学校の理科授業への協力を行うことができた。

コロナ禍においては、プラネタリウムや展示実演の定員を減らすなどの工夫を行うことで、可能な限り感染リスクを抑えた。

プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介し、来館者の天文に対する興味関心を喚起することができた。スタンプの利用も多く、リピーターを獲得できた。

学校では表現しにくい天体の動き等について、ドーム空間で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。また、新型コロナウイルスの影響で来館できなかった学校に対しては学習教材の貸し出し、学校への職員の派遣またはオンラインでの学習投影内容の解説質問対応を通して学習支援を行うことができた。

理科授業プログラムの実施を通して、学校教育と連携した取組の強化に積極的に取り組んでおり、大変評価する。今後も、学校教育と連携した事業の実施及び協力に期待する。

利用率向上のため、新たにリピーター確保の方策を実施したことを大変評価する。今後も新たな利用者獲得、リピーター増に向けた番組の充実など工夫を期待する。また、感染対策として各種ガイドライン等を遵守しながら、できるだけ多くの市各学校のスガイライン(360度映像)を投影しながら、子どもたちにとってわかりやすく、効果的な学習となっていることを評価する。また、新型コロナウイルスの影響で来館できない学校のため、新たに学校への職員の派遣またはオンラインでの取組を行ったことを評価する。子どもたちの天体への関心が高まる工夫を今後も期待する。

▼ オート番組制作・購入

プラネタリウム投影時に上映するオリジナルのオート番組(ドーム全体に投影されるアニメーション動画)を科学館の特色、独自性を生かして制作した。また、旬の話題を取り入れるために、市販の番組も購入した。

・制作

一般向けオリジナルオート番組「うさぎ月夜のふしぎ旅」

・購入

「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 withコズミックフロント☆NEXT 太陽系のお友だちの段」、「ヒーリングアース」

小学校低学年から楽しめる「月」をテーマとしたオリジナル番組を制作した他、冬の特別展のテーマ「忍者」に合わせた番組、大人向けのヒーリング番組と、幅広い客層に向けた番組を取り入れることができた。

幅広い市民に楽しんでもらえるような工夫を凝らした運営を行っていることを評価する。今後も、市民の利用増が見込めるような投影を期待する。

▼ 字幕付きプラネタリウム

耳の不自由な人もプラネタリウムを楽しめるように、字幕付きの投影を行った。

4回 観覧者383名

字幕を付けることで耳の不自由な利用者にも健常者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。また、健常者の方々にも、字幕があることで星の名前が覚えやすいなど好評であった。

▼ キッズプラネタリウム

未就学児とその保護者を対象に、童謡やクイズを取り入れた親子で参加できる特別なプラネタリウムの投影を行った。

3回 観覧者214名

幼児向けの投影素材を充実させ、対象年齢に合わせた投影ができた。

▼ プラネタリウム祭り

プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともに、その魅力を広く市民に伝えるため、親子向けのキッズプラネ、大人向けのヒーリングなど、幅広いジャンルと組合わせた内容のイベントを実施した。

4日間 観覧者2,137名

幅広いジャンルと組合わせた内容のイベントを実施することで、プラネタリウムや星々の魅力を広く市民に伝えることができた。全ての日程の全ての投影回で満席となった。

▼ 屋間の星を見ようinサッポロさとらんど（さっぽろ星まつり）

市民の天文への興味・関心を高めるために、天体観望会や星に関するゲームを計画・準備したが、緊急事態宣言の発出に伴う臨時休館のため中止とした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止

▼ 移動天文台

市内各地に移動天文車と天文指導員を派遣することで、市民に天体観望の機会を提供し、天文に興味をもつ市民層を広げることを目的に実施した。

申込団体申し込み日 20日

（天体観望 7日）

（中止13日）

245名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

▼ 科学館天体観望会

科学館正面玄関前において口径10cmの望遠鏡を使った観望会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため事業を中止した。代わりに札幌市青少年科学館の望遠鏡から観測した天体の映像を、インターネットの配信サービスYouTubeを用いて配信した。

4回

再生数171,619回（2022年5月末時点）

▼ 札幌市天文台

天文に関する興味・関心を高めるため、札幌の中心部に程近い中島公園内にある天文台を公開し、日中は太陽を中心に、夜は季節の星座を中心に観望会を実施した。

午前216回 観覧者1,736名

午後183回 観覧者1,665名

夜間39回 観覧者693名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

イベントは中止となったものの、新型コロナの状況を踏まえた観望会や、コロナ禍でのイベント運営についてのノウハウを蓄積することができた。

広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。

オンラインにて貴重な天文現象を広く紹介することができた。配信ページへのコメントも好評だった。特に皆既月食のオンライン観望会は、リアルタイムで5千人近くの方が視聴し、累計で16万回以上再生されるほどの人気コンテンツとなった。

太陽や季節の星座の星を中心に、広く市民に天体観測の機会を提供できた。決して広い天文台ではないものの、十分な換気を図ったり、利用者の入替制を採用するなどして、新型コロナウイルスへの対策を講じ、安全な観望機会を提供できたと考えている。

アウトリーチ活動は、新たな利用者の獲得につながるとともに、科学館に来館できない子どもたちにとっての貴重な学習機会の提供となることから、更なる事業の拡大を期待する。

コロナ禍において、オンラインの企画・実施をおこなったことを高く評価する。今後もオンラインを活用した事業展開を期待する。

昼間、夜間公開を通して、多くの市民等に天文に関する知識の普及啓発を行っており、大変評価する。新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、日中・夜間を通して市民への天体観測の機会を提供していることを評価する。

▼ 宇宙セミナー

はやぶさ2帰還カプセル特別展示を機に、リュウグウの試料分析に携わる専門家による講演会を実施した。また、講演の記録映像を公開した。

講師：東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 教授 橘省吾 氏(リモート出演)

1回105名

※YouTube視聴回数247回(2022年5月末時点)

▼ 大人のための天文教室

大人への学習機会を提供するため、初心者向けや中級者向けなど難易度を設定し、天文講座を実施した。今年注目の天文現象やニュースを紹介したほか、受講者の疑問や質問に答える時間を重視した。晴天時には天体観測機器を活用し実際の星を見る観望会を行った。

(初級)やさしく学ぶ星空教室 1講座(全3回)33名
(中級)詳しく学ぶ天文講座 1講座(全4回)35名

▼ 親子天文教室

楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組合わせた天文教室を実施した。

5回 受講者84組205名

▼ 天文指導員の養成

天文に興味を持っている学生や一般市民に定期的に研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

登録者37名

※臨時休館期間もオンラインでの研修会を継続した

▼ 天文情報リーフレット「星空散歩」の発行

季節ごとの天体の様子や天文トピックスを掲載し、館内及び市内公共施設等で配架した。

6回42,500部

はやぶさ2カプセル展示にあわせて実施することで、宇宙天文への関心を高める相乗効果を狙った。また、記録映像を公開することで、知識を得る機会を幅広く提供できた。受講者からのアンケートを見ても、専門家の話を身近に聞くことができる機会として大変好評であった。

天体観測機器を活用した天文教室を行うことで、市民への天文知識の普及啓発を図った。また、受講者の質問に丁寧に答え、満足度を向上させることができた。

親子で天文現象等について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと天文分野の魅力を伝えることができた。

月1回程度の定例研修を通じて、天体観測の基礎的な知識を身に付けるとともに、移動天文台の実施等を通じて星について伝える技術について研修機会を提供できた。

季節ごとの天体情報に加え、月食や流星群など旬の天文現象を市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。

旬の話題について、オンラインも活用し、幅広い市民に提供できたことを大変評価する。引き続き、先端的な内容の研究・開発を市民に普及できるような講演に期待する。

生涯学習関連施設として、大人も学習できる場として寄与していることを評価する。引き続き幅広い世代への学習機会の提供となる取組に期待する。

専門的な人材確保のため、継続的な取組を期待する。また、研修機会を通して、職員・ボランティア間の連携を強化し、より市民にとって効果的な事業となることを期待する。

▼ 移動プラネタリウム

地理的・時間的に来館困難な学校などで移動プラネタリウムを用いた投影を行うことで学校教育との連携を図り、児童・生徒の天文に対する興味関心を喚起した。

小学校 12校12回 552名

中学校 1校 1回 89名

▼ 夏休み天体観望会

街明かりの影響が少ない定山溪自然の村を会場に、ペルセウス座流星群の極大を迎える8月12日に観望会を開催した。

1回 92名

▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力

▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。

・令和3年度北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)

・令和3年度道央地区博物館等連絡協議会総会(道央地区博物館等連絡協議会)

・第30回(令和3年度)指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会)

・第31回全国科学館連携協議会幹事館及び総会(全国科学館連携協議会)

・令和3年度全国博物館館長会議および全国科学博物館協議会理事会(全国科学博物館協議会)

・令和3年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議及び第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)

・令和3年度全国科学館連携協議会国内研修(全国科学館連携協議会)

・JPAオンラインプラネタリウム研究会2021(日本プラネタリウム協議会)

・JPA北海道プラネタリウムネットワーク研修会オンライン(日本プラネタリウム協議会)

※上記会合および研修会は全てオンラインでの実施

・第69回全国博物館大会(日本博物館協会)

来館が困難な小学校・中学校の児童・生徒に天文分野に係る学習内容を伝えるとともに、宇宙・天文分野に関する興味関心を喚起することができた。

市街地から見るのでできない、暗い天体や流星を観望する機会を多くの市民の方々に提供することができた。

関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。

アウトリーチ活動は、科学館に来館できない子どもたちにとって、学校とは異なる授業を提供できる良い機会となっていることから、可能な範囲で継続した事業の実施を期待する。

子どもの自由研究にも関与できるような事業を展開したことを評価する。

職員の資質向上につながる研修や講座等に参加し、情報の蓄積を続けており、評価する。これらの研修や講座で得た知識を活用し、今後も科学及び科学技術の知識の普及啓発に向けた取組に期待する。

▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。

- ・北海道医療大学
- ・北翔大学
- ・北海道ハイテクノロジー専門学校
- ・北海道科学大学
- ・アシックスジャパン株式会社
- ・新得町教育委員会
- ・(公社)日本義肢装具士協会
- ・(一社)POSYRE WALKING協会

▼ 各種関係機関と連携し、以下の取組みを行なった。

● 社会教育施設・団体等と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・サイエンZOO(動物園科学の日)(札幌市円山動物園)
- ・かるちやるnetへの参加(事務局:北海道博物館)
- ・CISEネットワークへの参加(事務局:北海道大学総合博物館)
- ・サイエンス厚別(厚別区PTA協議会)
- ・ガガーリン星への道(北海道総合政策部国際局国際課)
- ・ふしぎ・おどろきサイエンスキッズ(札幌市子ども会育成連合会)
- ・ジオ・フェスティバル in Sapporo2021(同実行委員会)
- ・手作り望遠鏡を作ろう(北海道情報大学)
- ・さっぽろのまちをマインクラフトでつくってみよう(さっぽろ産業振興財団)
- ・東日本大震災に関するパネル展(札幌市防災協会)
- ・地域プロジェクト演習(札幌市立大学)
- ・2021サイエンスパーク(同事務局)

● 学校教育機関等と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・実験実習セットの貸し出し 21団体80セット
- ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」の実施 3回 参加者38名
- ・職場体験の受け入れ 2校 参加者3名
- ・博物館実習等の受け入れ 2校 11名

● その他

- ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト(一般財団法人日本宇宙フォーラム)(作品応募数 作文:12名 絵画:39名)

大学や企業、業界団体の協力を仰いだことで、それぞれの分野の専門性を企画に盛り込むことができ、その結果、魅力ある特別展を実施することができた。

市内外の社会教育施設や大学、高等学校と連携し、交流を深め、ネットワークづくりを図ることができた。

各種関係機関や他の社会教育施設、学校教育機関、地域と連携した取組を評価する。このようなネットワークを活かした新たな事業展開に期待する。

	▼ エア科学館 臨時休館中、Twitterを用いて科学トピックスや科学館の展示物を紹介した。 89回(5/11～3/25) ▽ その他科学等の設置目的を達成するために必要な業務 ▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援した。	天文情報や科学実験動画などを配信し、臨時休館中であっても、科学に関する知識の普及啓発に努めることができた。 職員の中でWebを活用した情報発信のノウハウが蓄積されてきており、前年度と比較して、より多彩で内容の濃い動画コンテンツなどを配信することができ、多くの方に視聴いただくことができた。 解説や質疑を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。	臨時休館中も科学知識の普及啓発に努めたことを大変評価する。今後もSNS等を活用した情報発信に期待する。 双方向のコミュニケーションを通して、より深く学ぶことができる場を提供していくことで、科学に興味・関心を持つきっかけに多大に寄与するため、引き続き、市民の学習を支援する様々な取組に期待する。																																
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table border="1" data-bbox="415 1171 974 1409"> <thead> <tr> <th></th><th>R2年度実績</th><th>R3年度計画</th><th>R3年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td><td>62,039</td><td>117,000</td><td>91,017</td></tr> <tr> <td>プラネタリウム</td><td>26,524</td><td>47,800</td><td>39,891</td></tr> <tr> <td>セット</td><td>27,866</td><td>21,000</td><td>35,346</td></tr> <tr> <td>総計</td><td>116,429</td><td>185,800</td><td>166,254</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="415 1446 974 1493"> <tbody> <tr> <td>事業参加者数</td><td>10909</td><td>—</td><td>15,154</td></tr> </tbody> </table> ▽ 不承認0件、取消し0件、減免19,250件、還付0件		R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績	展示室	62,039	117,000	91,017	プラネタリウム	26,524	47,800	39,891	セット	27,866	21,000	35,346	総計	116,429	185,800	166,254	事業参加者数	10909	—	15,154	計画数には届かなかったものの、3か月間以上臨時休館を挟んだうえでの来館者数としては、ほぼ想定していた程度の実績を上げることができた。	<table border="1" data-bbox="1219 1136 1429 1171"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、来館者が減少している。リニューアルオープン後は、より市民に科学を楽しく学ぶ場を提供できるような運用を目指すこと。</td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、来館者が減少している。リニューアルオープン後は、より市民に科学を楽しく学ぶ場を提供できるような運用を目指すこと。			
	R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績																																
展示室	62,039	117,000	91,017																																
プラネタリウム	26,524	47,800	39,891																																
セット	27,866	21,000	35,346																																
総計	116,429	185,800	166,254																																
事業参加者数	10909	—	15,154																																
A	B	C	D																																
新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、来館者が減少している。リニューアルオープン後は、より市民に科学を楽しく学ぶ場を提供できるような運用を目指すこと。																																			

▽ 利用促進の取組

▼ 閑散期の利用促進のため、雪ミクとコラボしたイベントを企画し、新たな来館者を掘り起こした。

▼ 開館記念日である10月4日を含む10月から11月にかけて、40周年を祝うイベントや科学館の歴史を振り返る写真パネルを使ったクイズなどを断続的に開催した。また、40周年記念にあわせて、市全体の観光需要や施設への需要を喚起することを目的とした、展示室無料開放キャンペーンを開催し、結果、多くの方が来館された。

▼ リピーターの拡大を図るため、展示室年間パスポートの販売を継続した。臨時休館期間は、有効期限を延長するなどして対応を図った。
前年度に導入した、特典付きのプラネタリウムスタンプ制度は、スタンプ上限の12個全て揃えた方が、総勢31組40名にも上るなど、着実に定着してきた。なお、臨時休館の影響で押せなかったプラネタリウムスタンプを再開館後に当月分とセットで二つ押せるキャンペーンを実施したところ、非常に好評を得た。

- ・展示室年間パスポート販売 447枚
- ・プラネタリウムスタンプ12個達成者 40名 / 3個達成者 751名(12個達成の40名を含む)
- ・Sciキッズ会員 28名(継続28名)

利用者の満足度を高めるため、イベントを工夫したり、周年事業を断続的に開催して話題性を高めるなどして、利用促進を図ることができた。

特に周年事業の目玉として実施したはやぶさ2カプセル展および、展示室無料キャンペーンは、開館前から長蛇の列ができるほどの集客効果があり、利用促進として大きな役割を果たすことができた。

また、展示室年間パスポートやプラネタリウムスタンプ制度は、着実に利用者間で定着してきているものと捉えている。

利用者が減じないよう閑散期に対する取組や、新規利用者の確保に向けた取組を実施しており評価する。

リピーターの拡大を図るための特典付きプラネタリウムスタンプ制度の導入等の工夫を行っていることを評価する。
今後も市民のニーズを捉えた、利用者増加の取組を期待する。

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「解説員のおすすめ」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の発信に努めた。また、ウェブアクセシビリティの向上のため、JIS X 8341-3:2016「附属書JB(参考)試験方法」に基づき検査を行い、一部を除いてレベルA準拠であることを確認した。レベルAを満たしていない項目については、大掛かりな修正作業が必要であったため、ホームページリニューアルの機会に対応を図る予定である。 ▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。また、マスメディアに対しても積極的に投げかけた。 ▼ 開館40周年の節目として、科学館の歩みを紹介するパンフレットの制作や、パネル展を開催し、広く市民に情報を発信した。 ▽ 引継ぎ業務 ▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。	ホームページのコンテンツ、読みやすさともに工夫し、情報を発信した。特に今年度は、イベント等の告知以外に、科学トピックスを紹介したり、館内の見どころを展示解説員が自ら紹介・解説するページを定期的に更新するなど、読み物としてのコンテンツ作成に力を入れた。 施設の知名度を高めるとともに、施設への愛着心を深めることができた。特にはやぶさ2カプセル展の際は、メディア向けに内覧会を実施するなどし、テレビや新聞、雑誌、ミニコミ誌など10社以上からの取材を受けた。	今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。また、ホームページについては、早期に全体を常時SSL対応とすること。

2 自主事業その他

▽ 自主事業		A B C D
▼ 自動販売機事業 売上高 2,067,195円 ▼ 売店事業 売上高 4,053,703円 ▼ その他 収入額 1,060円 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に取り組んでいる。また、業務の再委託について、入札の指名に当たり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。 ▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。 ▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。例年実施してきたプラネタリウム用の補聴器の貸し出しに関しては新型コロナウイルス感染防止のため、一年間を通して休止した。 ・車椅子の貸し出し ・字幕付きプラネタリウムの実施	ピクトグラムを取り入れた館内案内表記や、券売窓口での筆談対応、聴覚にハンディがある方へ向けた字幕付き投影の実施など、館内利用時や事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができている。	引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。 ユニバーサルデザインの対応含め、多様な市民が利用しやすい場となるよう工夫がされており、評価する。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	スマートフォンなどを利用したWebアンケート
結果概要	科学館全体の満足度 とてもよかった(60.2%) / よかった(29.5%) / ふつう(5.8%) / よくなかった(2.6%) / とてもよくなかった(1.9%) 特別展等の内容の満足度 とてもよかった(53.0%) / よかった(24.3%) / ふつう(17.4%) / よくなかった(4.3%) / とてもよくなかった(0.9%) 職員の対応 とてもよかった(64.7%) / よかった(23.7%) / ふつう(9.6%) / よくなかった(0.6%) / とてもよくなかった
利用者からの意見・要望とその対応	【意見・要望】 ・コロナで休止している展示物があって残念だという声が多かった ・一部の展示物に人気が集まっているが、並びの列があいまいで横入りする人がいるので改善してほしい。 【対応】 ・段階的に展示物の再開した。 ・職員がオリジナルの展示物を自作し、休止中の展示物を補完した。 ・人気のある展示物には並びを示す足跡マークを設置した。 ・展示室内の列整理、誘導に係る人員配置を新たに行った。

アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が多く、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。

寄せられたご意見に関しても、順次対策を検討し、対応を図ることができた。

A	B	C	D
利用者の満足度が高い運営を行っていることを評価する。今後も新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで、展示物の運用やイベントの企画をお願いしたい。			

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	456,118	429,471	▲26,647
指定管理業務収入	443,817	423,349	▲20,468
指定管理費	367,502	367,502	0
利用料金	74,000	34,995	▲39,005
その他	2,315	20,852	18,537
自主事業収入	12,301	6,122	▲6,179
支出	459,378	418,065	▲41,313
指定管理業務支出	449,801	411,458	▲38,343
自主事業支出	9,577	6,608	▲2,969
収入-支出	▲3,260	11,406	14,666
利益還元			0
法人税等	35	35	0
純利益	▲3,295	11,371	14,666

▽ 説明

- ▼前年度と比較すると、観覧料収入が798万9千円増加した。
- ▼5月と8月の緊急事態宣言により2度の休館があったが、令和2年度よりも外出等の自粛が緩和傾向となり、来館者数が徐々に回復しつつあったことから、観覧料収入の増加に繋がったものと思われる。
- ▼収入項目のその他の部分は、札幌市からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い臨時休館した際の、観覧料収入分の補填および工作教室参加費などの事業収入である。
- ▼12月に実施した展示室無料キャンペーンに関しては、来館者分の観覧料収入相当額(約280万円)が、札幌市より補填された。
- ▼結果的に当初計画からは減収となったが、人件費や委託費などの支出を抑えた結果、約1,100万円の黒字となった。

当初予算と比べ、減収となったものの、各種コスト削減を進め、支出を抑えたため、収支の均衡を図ることができた。

A B C D
新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な利用料金収入減があった中でも支出を抑えたことを評価する。令和4年度も新型コロナウイルスの影響は続くことが予想されるが、収支状況が悪化しないよう収入と支出の均衡をとるよう努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

- ▼ 当団体の財務状況等は良好である。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
前年度から引き続いて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年となった。 5月から10月までの間に、3か月間以上の臨時休館を挟んだが、その間もホームページやSNS上で天文情報や科学実験動画などの配信を行い、市民に対して科学に関する知識の普及啓発に努めた。プラネタリウムの学習投影では、臨時休館中に来館できなかった学校を対象に、各校のニーズに合わせて職員を派遣したり、あるいはオンラインで学習投影内容を解説したりした。こういった新しいスタイルでの学習機会提供や学習支援は、前年度から積み重ねてきたノウハウがあったからこそ成し得たことであり、その質や量は前年に比べ大幅に向上したものと捉えている。 一方で、展示物に触れたり、「本物」を直接見たりすることで得られる実体験は子どもたちにとって、かけがえのないものであることから、夏冬の特別展は「スポーツ」や「忍者」をテーマに掲げて、各種感染対策を講じながら、前年度よりも体験要素を増やして実施した。特別展の他に、令和3年11月には小惑星探査機「はやぶさ2」の帰還カプセル実物をJAXAから借受け、はやぶさ2のプロジェクトを紹介するイベントを開催し、多くの市民に「本物」を鑑賞する貴重な機会を提供することができた。 また、開館40周年記念にあわせて、市全体の観光需要や施設への需要を喚起することを目的として実施した、展示室無料開放キャンペーンでは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し入場制限を行いながらも、展示物の「本物」や「サイエンスショー」等の実演を観覧できる機会を提供でき、多くの市民が来場できる機会を提供することができた。 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、ウイルスの影響で各事業を中断させないよう、環境を整備したり事業実施手法の改善に努めた結果、前年度と比較して来館者数で約40%、観覧料収入で約30%の増加となった。	来年度以降、科学館の保全およびリニューアル工事の関係で長期休館が続くことになる。そのため、多くの事業において、館内での実施が困難となるが、科学館以外の会場を確保したり、あるいは市内の小中学校へこちらから出向していくなどして、科学館の設置目的を達成するための事業の水準が例年を下回らないよう注力していく。 広報に関しては、再開館に備えて、発行している各種広報物の誌面を全面的に刷新する。また、イベント等の告知媒体と言うよりは、科学に関する情報発信媒体としての位置づけを強化していく。同時に、今まで以上にホームページやSNSといったwebの活用を積極的に進めていく。 館が使用できない中で、どのように事業を組み立てるのか、という点に関しては、この2年間のコロナ禍における各種活動で得たノウハウが、同様に役立つものと考えている。 新型コロナウイルス感染症については、少しずつ沈静化の様相を呈しているが、その影響が完全に無くなることは無いと考えている。そのため、引き続き感染症防止のための各種対策は継続し、広く市民に安心して科学館事業に参加してもらえるよう努めたい。 館の保全、展示物のリニューアル工事に関しては、札幌市教育委員会や設計業者、施工業者と連携・協力し、展示物の適正な運用に係る助言や、実演の開発、リニューアル後の館を活用した新たな事業企画などに積極的に関与し、再来年度の再開館に備えて準備を進めていきたい。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
常設展示を基本として、実演展示、企画展示、特別展示などにより幅広い市民に科学を楽しく学べる場を提供しており評価する。 また、コロナ禍の対応として開始した学習投影のオンライン実施・職員派遣については、リニューアル工事期間中への発展も期待できるだけでなく、再開後においても科学館の事業の幅を広げる可能性があると考えられるため、特に評価する。 今後は大規模なリニューアルを行う予定であるが、リニューアル後は科学館がより一層市民に親しまれる施設となることを期待する。	科学館休館中は、可能な限り事業をスクラップ(休止)するのではなく、市民にとって科学を楽しく学べる場を提供するためにはどのようなことが可能かの視点で整理するよう努めること。 また新しい事業を行うなど、新しい学習のスタイルについても引き続き、検討していくこと。 また、休館中にホームページのリニューアルやSNSの有効な活用方法について検討すること。